



◆自立支援の視点で、支援を続けたい



コープこうべ 生活文化・福祉部 課長 鮎沢 慎二氏

(私は) 4 回目の被災地入りになりましたが、来るたびに様子が変わっています。復旧のスピードが遅いように感じていますが、膨大な範囲を津波が襲ったのですから、がれきの問題 1 つをとっても阪神・淡路大震災のときと同じというわけにはいかないでしょう。

被災経験をもつ生協とし、何ができるかを常に考えています。

たとえば、コープこうべの組合員に呼びかけて手作り品の材料を集めて送り、仮設住宅にお住まいの高齢者の皆さんに作っていただき、それにコープこうべが工賃を乗せて買い上げて組合員に販売する仕組みなども考えられます。

自立支援の視点を常に持ちながら、被災者の目線に立ち、規模は小さくてもできることを、息長く続けたいと考えています。

同じ被災地として、継続支援を約束

～コープこうべ「地区交流先遣隊」の活動～



気仙沼・鹿折仮設住宅を訪れたコープこうべの皆さんと鹿折中・校庭仮設住宅自治会長の小野寺良男さん（前列中央）。

11月1日、コープこうべの役職員や組合員の計39人が「地区交流先遣隊」として宮城県内の被災地に入り、みやぎ生協の各ボランティアセンター（県北・仙南・仙台・石巻）が主催する、学習会やふれあい喫茶に参加しました。「地区交流先遣隊」とは、今後、被災地への継続的な支援を行なうにあたって何ができるかを、現地の方との交流を通して考える、コープこうべの取り組みです。

県北ボランティアセンターでは、気仙沼市・鹿折中学校グラウンドの仮設住宅を訪れ、「冬を暖かく過ごすための学習会」や「ふれあい喫茶」などを実施。その後、いまだにがれきが大量に残る市内を視察しました。

前日に神戸を発ち、バスに13時間揺られて宮城に入った参加者は、当日も仙台からバスで約3時間の移動がありましたが、疲れた表情も見せず、バスを降りてから会場までの坂道を歩いていました。

学習会では、断熱シートやすきまテープの有効活用方法など、冬を暖かく過ごすためのさまざまなヒントが紹介され、その後行なわれたふれあい喫茶では、被災時の体験などに耳を傾けながら言葉を交わし、コープこうべ組合員手作りの手編みのひざかけや靴下が手渡されました。



コープこうべ・秦正雄常務理事。

神戸の経験を宮城の発展の力に

活動終了後には全員が仙台に集合、18時から夕食を兼ねた、みやぎ生協役職員との交流会が行なわれました。コープこうべの秦正雄常務理事は「今回は短い交流でしたが、これからも続けたいと思います。同じ被災地として、神戸の経験が今後の宮城の発展の力になればと願っています」とあいさつしました。

◆「友情」による支援の
継続を

～コープあいち
復興支援の旅

コープあいち
東日本大震災被災地支援担当
岩本 隆憲氏

現地に常駐し、半年近くたちますが、現地のニーズに変化が起きてきています。

岩手に来る団体の支援ツアーの多くは、作業をして帰っていくボランティア・ツアーです。そこには交流がありません。

民家の手伝いをすれば民家の方との交流はありますが、だいたいは一時的なものになってしまい、仲間同士の交流はあっても被災者との交流はあまりありません。

交流を作るには地元の支援団体が間に入って、力を貸していただくことが必要でした。

この間、コープあいちで行なってきたタオルのお届けでは、現地のボランティア団体の皆さんの協力が得られ、各地でコープあいちの支援メッセージを伝えてもらったことで、被災された方との交流につながる変化が起きました。

そういう地元の支援団体とコープあいちがつながった協力関係を、地元の方々は「友情」と表現しています。



支援の旅、参加者の皆さん。

愛知から岩手へ タオルがつないだ復興支援の旅

津波で深刻な被害を受けた岩手の気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）への復興支援に取り組むコープあいちは、10月28日から30日にかけて、「『あなたがつなぐ復興支援』～愛知から岩手へ、往復1,800kmの旅～」を行ない、組合員39人が参加しました。

今回の旅では、碁石海岸（大船渡市）での清掃活動や仮設住宅への訪問を行ない、交流会も開催されました。

コープあいちでは、発災当初から炊き出し支援やタオルを贈る活動を行なっています。贈られた23万枚のタオルは、地元のボランティア団体である「椿の里・大船渡ガイド」の方が、避難所や仮設住宅の皆さんを訪ねて近況や要望を聞きながらお渡ししたことで交流が深まりました。

ガイドの会事務局長の佐々木典子さんは「被災者された方、コープあいちさん、そして、ボランティア団体のつながりをさらに強めて今後の支援に活かしたい」と話していました。（左欄にて関連記事掲載）



海藻やゴミを拾い集めるボランティアたち。



被災された方の話を、真剣な表情で聞く参加者。

「また、おいしいキュウリが食べたい！」



シャベルで泥をすくっていく。



かき出した泥が入った土のうが、ハウスの前に並ぶ。

10月22日、宮城県石巻市の「めぐみ野※」キュウリ生産者である鹿野昭さんのビニールハウスで、復旧作業ボランティアが行なわれました。参加したのは、みやぎ生協職員とその家族、そして取引先業者の計24人です。鹿野さんは、震災以前は、700坪もの面積で栽培を行なっていましたが、津波でハウスが押し流されました。

みやぎ生協では、6月にも、ハウスにたまったがれきの撤去作業を行なっています。今回は、津波の影響で畑にたまった泥を、元の畑の土が出てくるまで15cmほど取り除き、土のう袋に詰める作業を行ないました。

キュウリの栽培には課題も山積です。津波で塩水化した井戸水はキュウリ栽培には使えません。設備投資費用の問題もあります。そこで鹿野さんは「塩害に強い小松菜などから栽培をはじめ、いずれはキュウリの栽培を再開したいです」と話していました。

※ みやぎ生協の産直ブランドの名称。

◆リレー寄稿
～“ちゃんちゃんこ”が
結ぶ支援の絆



コープあいづ
理事長 荒井 信夫氏

コープあいづと原釜漁協は、県内4協同組合（農協、漁協、森林組合、生協）でつくる「地産地消福島ネット」のモデル事業として産直事業を行なってきましたが、東日本大震災で県内の漁業は大きな被害を受けました。

震災直後には縁のあるコープかながわの組合員さんからの見舞金の一部を活用させていただき、飲料水やカップ麺、ガソリン等を積み込んで、水産バイヤーと一緒に激励に行ったりしました。

その後コープかながわでは冬に向けて「手作りのちゃんちゃんこ」を被災者へ送ろうと「ちゃんちゃんこプロジェクト」を設置し作成してきたのですが、このたびその第1弾として「50着」届きました。

11月12日には、コープかながわの組合員さんの真心と一緒に“ちゃんちゃんこ”を届ける予定です。

未だに漁が再開できない状況ですが、1日も早い復旧に向け、今後も後押しをしていきます。

現地のニーズを細かく把握しながら支援

パルシステムグループ※とあいコープみやぎは連携し、3月末から被災地への支援活動を継続しています。女川町では依然、避難所生活を強いられる方が多く、10月13～16日、20～23日に炊き出し支援を行ないました。22日は、宮城県牡鹿郡女川町の女川第一小学校にて、炭火で焼いた230人分の国産牛肉や野菜、炊きたたのごはんにクリームシチュー、焼き芋などを提供しました。

被災地のニーズは、日々変化していきます。そのニーズに対応するには、支援者と現地の協力が不可欠です。パルシステム連合会執行役員の洪澤温之さんは、「あいコープみやぎは職員だけでなく、理事や組合員も常に同行してくれます。われわれだけで現地の情報を入手することは不可能ですから頼りになります」と話していました。パルシステムグループとあいコープみやぎはこれからも、生協ならではの支援を継続していく予定です。

※ パルシステム連合会および同連合会の会員生協・関連会社



あいにくの雨にもかかわらず、多くの人が並んだ。



肉は、(株)福永産業さんより無償提供。

来春に向け、球根を植えるボランティア実施



園芸の専門スタッフ4人が同行した。



植え方を教わる子どもたち。

10月26日、いわて生協では、保育園に球根を植えるボランティア活動を行ない、いわて生協ユニセフ委員（組合員）を含めた県内から28人、そして県外からの6人を含め、34人が参加しました。

この活動は、岩手県ユニセフ協会の主催で行なわれたものです。

この間、ユニセフでは、大槌町の大槌町保育園と吉里吉里保育園にプレハブの園舎を建てるなど、支援を続けてきました。

この日のボランティアでは、この2つの保育園に加え、おさなご幼稚園の計3施設に行き、花壇の草取りや来春に咲くチューリップや水仙の球根とビオラの苗を植えました。子どもたちも参加し、にぎやかな活動となりました。

岩手県ユニセフ協会では、この間、いわて生協と協力し、幼稚園、保育園におやつを届けるなど、さまざまな活動を行っており、今後も、継続した支援を行なっていきます。

◆みやぎ生協

「陸前男山 ふかひれ酒」限定販売



- ・「陸前男山ふかひれ酒」限定販売
- ・発売蔵元：(株) 男山本店（宮城県気仙沼市入沢 3-8）
- ・販売価格：720ml 3,000 円

(株) 男山本店と株式会社石渡商店では、東日本大震災以前に、気仙沼産のふかひれ酒の商品化を検討し、試作品を作成していました。

しかし、震災の津波で男山本店の社屋と石渡商店は壊滅。石渡商店のふかひれも津波で出荷不能となりましたが、神奈川県のある倉庫に酒用のふかひれ 5,000 パックの在庫があり、それを使い商品化しました。

この商品は男山本店のインターネットでの販売を基本としていますが、10月20日より、みやぎ生協の店舗でも 500 本限定で販売し、残りあとわずかと大変好評でした。

みやぎ生協では被災した気仙沼の地酒を販売することによって、被災地と被災した、男山本店と石渡商店を応援していきます。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

- 宮古・山田・田野畑・岩泉地域復興まつり～笑顔・元気・絆～（11/3）
- 陸前高田・大船渡で「あったか移動販売」（11/5）
- 南昌荘で陳為氏による二胡コンサート「がんばろう！岩手チャリティコンサート」（11/11）
- 原発・エネルギー問題を考える学習会②「原発問題の本質にせまる」（11/24）
- ボランティアバス継続開催

【宮城県】

みやぎ生協

- コープこうべ「地区交流先遣隊」の取り組み（各 VC、11/1）
- 宮城県重点分野震災対応事業「食材大国みやぎ販売」開始（白石店・幸町店・八幡町店、11/1～）
- 初収穫の仙台白菜販売（11/3）
- さわやかお茶会&冬を暖かく過ごす学習会（気仙沼仮設住宅、11/8）
- 健康相談会&ふれあい喫茶（塩釜体育館仮設、11/10）
- 震災復興コンサート「チェン・ミン LIVE」（萩ホール、罹災証明持参により無料の沿岸部送迎バス、11/11）
- ふれあいお茶会&へちま水学習会（サンスター様ご協力・仙台港背後地住宅、11/18）
- 「県復興計画学習会」（生活文化センター、11/25）
- ボランティア公演「打打打団天鼓」（岩沼店、11/26）
- 防寒対策でブレスサーモ 10%引き企画
- 仮設住宅での灯油登録拡大
- 県 VC にアクアラのウォーターサーバー36 台とボトル水の無償設置と配送を開始（県内沿岸部中心）
- 「陸前男山ふかひれ酒」限定発売（左欄参照）

宮城県生協連

- パネルディスカッション「震災後の消費者行政に何が必要か」（消費者行政の充実強化をすすめる懇談会みやぎ主催、11/7）

【福島県】

コープふくしま

- 除染専門ボランティアの派遣制度（県設置）の仲介窓口として活動開始
- 食の学習会「今だからこそ、よく食べて！！～免疫力を上げる、家族、笑顔、ご飯」（コラッセふくしま、11/7）

【茨城県】

茨城県生協連

- 放射能学習会 58 人参加（10/31）
- 宮城ボランティアバス運行（11/5・26）

【コープネット事業連合】

- 復興支援金贈呈のための被災地訪問（石巻・女川地区、11/1・2）
- 東日本復興支援「コープフェスタ 2011 つなげよう笑顔」（さいたまコープ、11/5・6）

◎生協の震災復興支援の取り組み情報募集!!

皆様の地域での生協の復興支援に関する取り組み情報を、お寄せ下さい。
 情報提供用専用メールアドレス action@coop-book.jp



つながろう CO・OP アクション情報
 （隔週発行・次回 11 月 24 日発行予定）

発行 日本生活協同組合連合会（会員支援本部出版部）
 〒150-8913 東京都渋谷区渋谷 3-2 9-8 コーププラザ 1 1 F
 Tel : 03-5778-8183 / Fax : 03-5778-8051
 action@coop-book.jp